

時間外労働等改善助成金交付要綱
(時間外労働上限設定コース)

(通 則)

第1条 時間外労働等改善助成金時間外労働上限設定コース(以下「助成金」という。)については、補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律(昭和30年法律第179号)、補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律施行令(昭和30年政令第255号。以下「施行令」という。)及び厚生労働省所管補助金等交付規則(平成12年厚生省労働省令第6号)の規定によるほか、この交付要綱の定めるところによる。

(交付の目的)

第2条 この助成金は、中小企業事業主が、時間外労働の上限設定、ひいては総労働時間の削減のための研修、周知・啓発、労働時間の管理の適正化に資する機械・器具の導入等を実施し、生産性の向上を図るなどにより、時間外労働の削減その他の労働時間等の設定の改善の成果を上げた事業主に重点的に助成金を支給することにより、中小企業における労働時間等の設定の改善の推進を図ることを目的とする。

(交付の対象及び補助率)

第3条 この助成金は、別途定める中小企業事業主が、(1)及び(2)に掲げる事業(以下「改善事業」という。)を実施するために必要な経費のうち、助成金交付の対象として第2項で定める経費(以下「助成対象経費」という。)について、予算の範囲内で助成金を交付する。

(1) 労務管理担当者に対する研修(業務研修を含む)、労働者に対する研修(業務研修を含む)、周知・啓発、外部専門家によるコンサルティング、就業規則・労使協定等の作成・変更、人材確保に向けた取組の事業

(2) 労務管理用ソフトウェア、労務管理用機器、デジタル式運行記録計、テレワーク用通信機器、その他の労働能率の増進に資する設備・機器等の導入・更新の事業

2 助成対象経費は、前項に掲げる改善事業を実施するために必要な

経費のうち、謝金、旅費、借損料、会議費、雑役務費、広告宣伝費、印刷製本費、備品費、機械装置等購入費及び委託費とする。

- 3 中小企業事業主は、第1項の改善事業を実施するに当たっては、時間外労働の上限設定について成果目標を設定し、その達成に向けた内容とすること。

成果目標は、すべての対象事業場(※1)において、平成30年度又は平成31年度内において有効な時間外労働・休日労働に関する協定(以下「36協定」という。)について、労働基準法第36条第1項の規定によって労働時間を延長して労働させることができる時間及び休日において労働させることができる時間を短縮し、(1)から(3)のいずれかの範囲内で延長する労働時間数の上限を設定し、所轄労働基準監督署長に届け出を行うこととする。

(1) 時間外労働時間数で月 45 時間以下(※2)かつ、年間 360 時間以下に設定

(2) 時間外労働時間数で月 45 時間を超え月 60 時間以下(※2)かつ、年間 720 時間以下に設定

(3) 時間外労働時間数で月 60 時間を超え、時間外労働時間数及び法定休日における労働時間数の合計(以下「時間外労働時間数等」という。)で月 80 時間以下かつ、時間外労働時間数で年間 720 時間以下に設定

(※1) 中小企業事業主が、様式第1号別添「時間外労働等改善助成金事業実施計画(以下「事業実施計画」という。)」において指定した事業場を指す。

(※2) 時間外労働時間数等で月80時間以下であることとする。

- 4 補助率は、 $3/4$ とする。ただし、常時使用する労働者数が30名以下かつ、第1項(2)の事業を実施する場合で、その所要額が30万円を超える場合の補助率は $4/5$ とする。

- 5 第3項の成果目標を達成した場合の上限額は、対象事業場の申請時点の時間外労働時間数等及び事業実施後に設定する時間外労働時間数等に応じて、次の表のとおりとする。

なお、複数の対象事業場で上限額が異なる場合は、最も高い上限額とする。

事業実施後に 設定する時間 外労働時間数 等	事業実施前の設定時間数		
	現に有効な 36 協定において、 時間外労働時間 数等が月 80 時 間を超える又は 年間 720 時間 を超える時間外 労働時間数を 設定し、支給要 領第 1 の 1 (3) ① に該当する 事業場	現に有効な 36 協定において、 時間外労働時間 数で月 60 時間 を超えかつ、年 間 360 時間 を超える時間外 労働時間数を 設定し、支給要 領第 1 の 1 (3) ① 又は②に 該当する事業 場	現に有効な 36 協定において、 時間外労働時間 数で月 45 時間 を超えかつ、年 間 360 時間 を超える時間外 労働時間数を 設定し、支給要 領第 1 の 1 (3) ① から③の いずれかに 該当する事業 場
時間外労働時間数で月 45 時間以下(※ 2)かつ、年間 360 時間以下に設定	150 万円	100 万円	50 万円
時間外労働時間数で月 45 時間を超え月 60 時間以下(※ 2)かつ、年間 720 時間以下に設定	100 万円	50 万円	—
時間外労働時間数で月 60 時間を超え、時間外労働時間数等で月 80 時間以下かつ、時間外労働時間数で年間 720 時間以下に設定	50 万円	—	—

6 中小企業事業主は、第3項の成果目標に加えて、すべての対象事業場において、週休2日制の導入に向けて、(1)から(4)のいずれかの範囲内で休日を増加させて設定をすることを成果目標にすることができる。

- (1) 4週当たり8日以上に設定
- (2) 4週当たり7日に設定
- (3) 4週当たり6日に設定
- (4) 4週当たり5日に設定

7 前項に定める成果目標を追加した場合は、増加させた休日の日数(※3)に応じて、次の表のとおり第5項の上限額に加算する。

なお、複数の対象事業場で加算額が異なる場合は、最も高い額を加算する。

また、すべての対象事業場で休日の日数の増加が認められなかった場合は加算しない。

(※3) 対象事業場において、申請時点で付与される所定休日が最も少ない労働者で判断する。

事業実施後	事業実施前			
	4週当たり 4日	4週当たり 5日	4週当たり 6日	4週当たり 7日
4週当たり 8日以上	100万円 (4日以上増)	75万円 (3日増)	50万円 (2日増)	25万円 (1日増)
4週当たり 7日	75万円 (3日増)	50万円 (2日増)	25万円 (1日増)	—
4週当たり 6日	50万円 (2日増)	25万円 (1日増)	—	—
4週当たり 5日	25万円 (1日増)	—	—	—

8 助成金の交付額は、1企業当たり200万円を上限額とし、第5項及び第7項に定める額の合計額の範囲内で、改善事業の実施に要した費用の合計に第4項に定める補助率を乗じた額とする。

ただし、算出された合計額に1,000円未満の端数が生じた場合には、これを切り捨てるものとする。

(交付申請)

第4条 時間外労働等改善助成金の交付を受けようとする中小企業事業主は、様式第1号「時間外労働等改善助成金交付申請書」(以下「交付申請書」という。)を事業実施年度の12月1日までに管轄の都

道府県労働局長（以下「労働局長」という。）に提出しなければならない。

（交付決定等）

第5条 労働局長は、前条の規定による交付申請書の提出があったときは、審査のうえ、申請した中小企業事業主が改善事業を実施することが適当であると認めた場合は、交付の決定を行い、様式第2号「時間外労働等改善助成金交付決定通知書」により、また、改善事業を実施することが適当でないと認めた場合は、不交付の決定を行い、様式第3号「時間外労働等改善助成金不交付決定通知書」により、当該中小企業事業主に通知するものとする。

2 労働局長は、交付申請書が到達した日から起算して原則として1月以内に交付又は不交付のいずれかの決定を行うものとする。

（申請の取下げ）

第6条 中小企業事業主は、交付決定の内容又はこれに付された条件に対して不服があることにより、当該助成金の交付の申請を取り下げようとするときは、前条の通知を受けた日から15日以内にその旨を記載した書面を労働局長に提出しなければならない。

（契約等）

第7条 改善事業を行う中小企業事業主（以下「改善事業主」という。）は改善事業を遂行するため、売買、請負その他の契約をする場合は、一般の競争に付さなければならない。ただし、改善事業の運営上、一般の競争に付することが困難又は不適當である場合は、指名競争に付し、又は随意契約をすることができる。

（事業実施期間）

第8条 改善事業主が改善事業を実施することができる期間は、交付決定の日から当該交付決定日の属する年度の2月1日までとし、改善事業を実施する期間（以下「事業実施期間」という。）は、事業主が事業実施計画において指定する。

（交付決定内容の変更）

第9条 改善事業主は、第5条第1項の交付決定を受けた内容を変更（軽微な変更を除く。）しようとする場合は、あらかじめ様式第4号「時間外労働等改善助成金事業実施計画変更申請書」を労働局長

に提出し、その承認を受けなければならない。

- 2 労働局長は、前項の規定による申請書の提出があったときは、審査のうえ、申請の内容が適当であると認めた場合は、事業実施計画変更承認の決定を行い、様式第5号「時間外労働等改善助成金事業実施計画変更承認通知書」により、また、申請の内容が適当でないと認めた場合は、事業実施計画変更不承認の決定を行い、様式第6号「時間外労働等改善助成金事業実施計画変更不承認通知書」により、改善事業主に通知するものとする。
- 3 労働局長は第1項の承認をする場合において必要に応じ交付決定の内容を変更し、又は条件を付することがある。

(改善事業の中止又は廃止)

- 第10条 改善事業主は、改善事業を中止又は廃止しようとするときは、様式第7号「時間外労働等改善助成金事業中止・廃止承認申請書」を労働局長に提出し、その承認を受けなければならない。
- 2 労働局長は、前項の承認をしたときは、様式第7号の2「時間外労働等改善助成金事業中止・廃止承認通知書」により、改善事業主に通知するものとする。

(事業遅延の届出)

- 第11条 改善事業主は改善事業が予定の期間内に完了することができないと見込まれる場合、又は改善事業の遂行が困難となった場合においては、あらかじめ様式第8号「時間外労働等改善助成金事業完了予定期日変更報告書」を労働局長に提出し、その指示を受けなければならない。

(状況報告)

- 第12条 改善事業主は、改善事業の実施状況について、労働局長から報告を求められた場合には、速やかに様式第9号「時間外労働等改善助成金事業実施状況報告書」を労働局長に提出しなければならない。

(支給申請手続及び実績報告)

- 第13条 改善事業主は、事業実施期間が終了したときは、その日から起算して1か月を経過した日又は交付決定を受けた日の属する年度の2月15日のいずれか早い日までに、様式第10号「時間外労働等改善助成金支給申請書」(以下「支給申請書」という。)及び様式第

11号「時間外労働等改善助成金事業実施結果報告書」を、労働局長に提出しなければならない。

- 2 前項の場合において支給申請書及び報告書の提出期限について、労働局長の別段の承認を受けたときは、その期限によることができる。

(助成金の額の確定等)

第14条 労働局長は、前条の申請及び報告を受けた場合には、支給申請書及び報告書等の書類の審査及び必要に応じて現地調査等を行い、その申請及び報告に係る改善事業の実施結果が助成金の交付の決定の内容又は第9条に基づく計画変更の承認内容及びこれに付した条件（以下「助成金の交付の決定の内容等」という。）に適合すると認めるときは、交付すべき助成金の額を確定し、様式第12号「時間外労働等改善助成金支給決定通知書」により、助成金の交付の決定の内容等に適合しないと認めるときは、様式第13号「時間外労働等改善助成金不支給決定通知書」により、改善事業主に通知する。

(消費税仕入控除税額の確定に伴う助成金の返還)

第15条 改善事業主は、改善事業完了後に、消費税及び地方消費税の申告により助成金に係る消費税及び地方消費税に係る仕入控除税額が確定した場合（仕入控除額が0円の場合を含む。）は、様式第14号「時間外労働等改善助成金に係る消費税額の確定に伴う報告書」により速やかに、遅くとも改善事業完了日の属する年度の翌々年度6月30日までに労働局長に報告しなければならない。

なお、補助金に係る仕入控除税額があることが確定した場合には、当該仕入控除税額を国庫に返納しなければならない。

(交付決定の取消等)

第16条 労働局長は、第10条の改善事業の中止又は廃止の申請があった場合及び次に掲げる場合には、第5条の交付決定の全部もしくは一部を取り消し又は変更することができる。

- (1) 改善事業主が、法令、本要綱、法令又は本要綱に基づく労働局長の処分又は指示に違反した場合
- (2) 改善事業主が、偽りその他不正の行為により本来受けることのできない助成金を受け、又は受けようとした場合（以下「不正受給」という。）
- (3) 交付決定後生じた事情の変更等により、改善事業の全部又は一

部を継続する必要がなくなった場合

- 2 労働局長は、前項の(1)から(3)に該当するとして交付決定の全部もしくは一部を取消し又は変更した場合は、様式第3号の2「時間外労働等改善助成金交付決定取消・変更通知書」により、改善事業主に通知する。
- 3 労働局長は、第1項の取消しをした場合において、既に当該取消しに係る部分に対する助成金が交付されているときは、期限を付して当該助成金の全部又は一部の返還を命ずるものとする。
- 4 労働局長は、前項の返還を命ずるときは、様式第15号「時間外労働等改善助成金返還決定通知書」により、改善事業主に通知する。
- 5 労働局長は、第3項の返還を命ずる場合には、その命令に係る助成金の受領の日から納付の日までの期間に応じて、年利10.95%の割合で計算した加算金の納付を併せて命ずるものとする。
- 6 第3項に基づく助成金の返還及び前項の加算金の納付期限は、当該命令のなされた日から20日とし、期限内に納付がない場合は、未納に係る金額に対して、その未納に係る期間に応じて年利10.95%の割合で計算した延滞金を徴するものとする。
- 7 労働局長は、第1項の取消しをした場合において、改善事業主の行った不正受給が特に重大又は悪質なものであると認められる場合、(1)から(4)までの事項を公表する。
 - (1) 不正受給を行った改善事業主の名称及び代表者氏名
 - (2) 不正受給に係る事業場の名称、所在地及び事業概要
 - (3) 不正受給に係る助成金の名称、交付決定を取り消した日及び返還を命じた額及び返還状況
 - (4) 事業主の行った不正の内容

(財産の管理等)

- 第17条 改善事業主は、助成対象経費により取得し、又は効用の増加した財産（以下「取得財産等」という。）については、改善事業の完了後においても、善良な管理者の注意をもって管理し、助成金交付の目的に従って、その効率的運用を図らなければならない。
- 2 取得財産等を処分することにより、収入があり、又はあると見込まれるときは、その収入の全部又は一部を国に納付させることがある。

(財産の処分の制限)

- 第18条 取得財産等のうち、施行令第13条第4号の規定により、厚生

- 労働大臣が定める機械及び重要な器具は、取得価格又は効用の増加価格が30万円を超える機械、重要な器具及びその他の財産とする。
- 2 改善事業主は、施行令第14条第1項第2号の規定により厚生労働大臣が別に定める期間中において、処分を制限された取得財産等を処分しようとするときは、あらかじめ労働局長の承認を受けなければならない。
 - 3 前条第2項の規定は、前項の承認をする場合において準用する。

(助成金の経理)

- 第19条 改善事業主は、改善事業についての収支簿を備え、他の経理と区分して改善事業の収入額及び支出額を記載し、助成金の使途を明らかにしておかなければならない。
- 2 改善事業主は、前項の支出額について、その支出内容を証する書類を整備して前項の収支簿とともに助成金の額の確定の日の属する年度の終了後5年間保管しなければならない。ただし、事業により取得し、又は効用の増加した財産がある場合は、前記の期間を経過後、当該財産の財産処分が完了する日、又は施行令第14条第1項第2号の規定により厚生労働大臣が別に定める期間を経過する日のいずれか遅い日まで保管しておかなければならない。

(その他)

- 第20条 助成金の交付に関するその他必要な事項は、厚生労働省労働基準局長が別途定める。

(附則)

- この要綱の規定は、平成30年4月6日以降の交付申請から適用する。